

本日の講義の主なポイント

○地域に根ざした「**すべての関係性を失う**」ということ

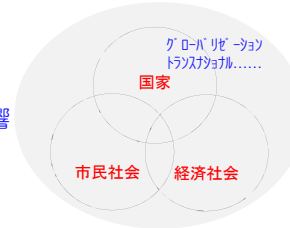
- 突如として「いまの暮らしや**未来を奪われる**」ということ→**<不理解>**と**<暴力>**
- 原発避難の被害状況と構造を知る・理解する
→**私たち一人ひとりが加害者**になり得る
- これまで学んだ水俣学の知識をもとに
原発被災地で起きていることを**自ら考える**
また、福島を学ぶことで水俣を**捉えなおす**

1

0-1. 原発避難を考える前提として

●市民社会の3項構造

- ・3項間の相互関係の存在
- ・経済、国家が市民社会に影響



市民社会優位から生活社会の植民地化：
経済社会の優位／国家と経済の癒着
→市場原理による生活支配
→生活世界の逆襲（**運動**）の台頭によってのみ……）
→**福島から新たな社会モデルの構築……？**

2

0-2. 原発避難を考える前提として

●原子力発電とは……

- ・エネルギー・環境政策（クリーン、資源→寡占企業）
- ・防衛（核抑止力）
- ・戦後における原子力の平和利用（日米の利害）
→その一方、原賠法4条1項と3項
：問われない製造者責任→国を超えた利害？
- ・原発稼働期の米国の国力と世界的影響力
→IAEA、WHO…… cf. ローカルレベルでの関与と復興政策
↓↓↓↓↓
（警戒区域解除後）法律上さまざまな決定権を持つ
首長の権限が国や東電等の作用によって制御

3

0-3. 原発避難を考える前提として

複雑な問題の解決へ——障壁となる「不理解」

「原発避難」は「理解することが非常に難しい問題」
（山下ほか2013:23）

「私たちは、追い出されたと思っている」
「（今なお）なぜここ（避難先）にいるのか分からない」
（前掲書：25）

↓
専門家を含む周囲からの思惑や「分かったつもり」

→専門家／当事者／**メディア／世論／policymaker**……
→被災後、さまざまな場面に存在する「**不理解**」と
その**暴力的影響**（例：賠償、飲酒、帰還）

7

原発避難をめぐる諸問題……大ざっぱに捉えると

- ①広範かつ複雑な避難問題…「帰らない」「周りが帰れば」
- ②ゆえに政策(国)現場で**正確に認識されず**
…陳情ルート、裏付けデータの問題など
- ③現行政策が必ずしも十分な被災者**救済に繋がらず**
- ④一方で、復興に向けた政治的決定の**急速展開**
…(被災者)考える余裕もなく人生の選択を、(被災地)国策に従わざるを得ない？
- ⑤背景に存在する地方自治・分権をめぐる問題
- ⑥問題の深刻化を後押しする**世論を否定できず**
…賠償金と生活再建をめぐる問題、社会関係すべてを失ったことへの<不理解>、
パチンコや飲酒問題、そもそもの**原発立地と恩恵**に対する<不理解>など

5

【原発事故被災地域（避難指示区域等）】平成25年5月7日現在



- ・13万人超が**今も避難**
- ・強制避難
→自主避難
→生活内避難
- ・実際の避難者数は？

6

1. 事故後避難の実際（飯館村を例に）

- ・（2011.3.11事故直後の双葉郡町村における避難）
- ・2011.4/11 計画的避難区域の設定方針
- ・4/22 計画的避難区域に指定
：1700世帯→3000世帯に離散拡大
避難方針として… 国（健康）vs.村（生活）
→村から概ね1時間圏内
→避難先から村に通い、生活基盤を維持
→体育館等への集団的避難は認めず
- ・8/中 避難完了（立地市町村の数倍～数十倍被ばく）
→3/15：44～200超μSV/h（5mSV/日）cf. 放管区域
- ・2011.12～ 国モデル除染事業
- ・2012.10～ 本格除染事業に着手（仮置場未整備）
- ・10/19 避難区域解除時期合意（国が前倒し要求）
- ・10/21 菅野村長再選（5期）
- ・2014.12 原賠審第4次追補（移住選択？）
- ・2016(14).3～ 避難指示解除（予定）

7

2-1. 原発避難と住民生活

- 家族が離散し避難せざるを得ない…1700→3000超
（大家族と生活空間とライフスタイル）
→「一度離散すればもとの生活には戻れない」
→「**貧しくとも、土地・家屋・食に困らず生活できた**」（飯館：所得水準57位／59市町村）
→「爺ちゃん婆ちゃんらと離れて暮らすなんて考えらんねえ」：避難を遅らせる結果に…
- 土地や歴史風土に根ざした生活喪失への悲しみ／挫折感
→旬の恵み、コミュニティ、家族、政職住一体…
：有形無形の**<資源>**をどう再現？／代替？
→最終的に**棄村 vs. 数十年後まで故郷を守る**

8

2-2. 原発避難と住民生活

【帰郷への想いと変化する住民意識①】

- ・高齢者を中心に「**離れたくない**」「避難はしない」
cf. 双葉郡 年齢、時間経過とともに変化
- ・仮設住宅や借上げ住宅での**暮らしの不安・ストレス**
→避難所から自宅に戻る避難者
- ・「戻りたいけど、暮らせねえ」「モノも売れねえ」
→明るみになる放射能汚染の深刻さ
- ・子どもや孫たちが帰れない場所には戻らねえ
→個人が判断するには重すぎる→国や市町村の判断
：「断ち切る」ための理由が欲しい！？

9

2-3. 原発避難と住民生活

【帰郷への想いと変化する住民意識②】

- 「働きてえ、働かねえと気が狂っちゃうぞうだ」
→ その一方で、**<就業意欲の低下>**が問題
cf. 飲酒やパチンコなどの行為に対する非難
- 「これまで築いたものを失っちゃって、どうにか働きたくても、**気力は日ごとに薄れてっちゃう**」
→ 避難先での閉じこもり、鬱傾向の増加
... 肥満や疾病、急死、自殺、凍死、殺人未遂
- これまで声を上げなかった住民の動き
→ 生活再建の要求、医療補償制度化、子ども疎開や集団移転、子どもの線量管理、賠償請求...
→ **活動の停滞、あきらめ、決別..... 何故？**

10

2-4. 原発避難と住民生活

【帰郷への想いと変化する住民意識③】

- <帰郷>やく除染>...への疑問と批判
- 10~12月にかけて約20回の村民懇談会(高い評価)
 - ① 除染の実現性への疑問 (方法論と効果)
 - ② 3000億円超の除染予算よりも、**生活/事業再建**を
 - ③ 早期の**集団的な移転**に向けた取組と選択の自由を
- **<国是>ゆえ...** 首長判断として妥当 (飯舘村、双葉郡、福島市...)
- 行政や政策への**信頼低下、参加・関与拒否**
 - ... 選択肢さえ与えられない**<生殺し>**状態
 - ... 民主主義不在、**<地域>vs.<暮らし>** cf. 他町村
 - ... 懇談会**参加者の低迷** (200人超→3人)

11

2-5. 原発避難と住民生活

住民の行政不信はなぜ高まるのか.....

～生じる誤解と対立 外的要因の一方に存在する**構造的な要因**～

- 手続きの公正
→ 双方向の対話、発言、説明責任
- 情報非対称性
→ 情報格差と一方方向→不信とあきらめ
→ 「住民は〇〇だ」 vs. 「役場は△△だ」 × バタリズム
- 行政と住民の関係
→ 依存と自立：ニーズは直接、コミュニティは間接
→ 支援制度のあり方が自立を阻害している？
↓ ↓ ↓ ↓ ↓
ニーズ(現場の課題)と政策のミスマッチ
→ 言っても何も変わらない→言うだけ無駄
→ 原地復興と公金使途、**解消される「避難者」**
↓ ↓ ↓ ↓ ↓
再生産 cf. 水俣の運動

12

3-1. 原発避難をめぐる問題——その実態

● <被災地の声>は<誰の声>？

- 信託を受けたはずの首長、議員...<上がってこない被災者の声>
国が言う<被災者の声>：首長、議員、高齢者 (cf. 選挙)、
仮設入居者、自治体が行う意識調査
(橋本摂子2012)

● 既に<取り戻せない><引き返せない>もの...

- 「子どもや孫が帰れる故郷を残したい」
「自分の故郷を失いたくない」
「先祖代々生かされた土地を守りたい」
- 家族・近隣関係：コミュニティの<再生>と<再構築>
→ 家族関係：大家族ゆえに貧しくとも暮らせた環境
→ 家族関係：県(村)外避難の決断と親子・家族関係の変化
→ 都市的生活様式の享受と自家処理能力の喪失：**<地域>の喪失**
- **選択の判断がつかない→人生設計の道標が欲しい**

13

3-2. 原発避難をめぐる問題——その実態

● <漠然とした不安>から<差し迫った不安>に

- 「罰則規定はねえんだから別に避難しねえって構わねえべ」
「帰れるにしても、帰れねえにしても、そんな時や国が村(町)が何とかしてくれっべ」
- 「こんな<生殺し>の状態がいつまで続くのか」「5年経っても状況は変わらねえ」
- 「戻りたくなくなつて(支援が切れれば線量の高いところに)帰るしかねえべ」...区域再編時の「20mSV以下は安全」(国)
- 「普通の生活がしたい」「きちんとした仕事に就きたい」「一軒家に暮らしたい」
- 「避難先で苦労して生活再建ができた後に、再び故郷でやり直す苦勞はしたくない」
→ **故郷との離別を決意する人たち**
： 故郷とかかわりを持ち続けることが生活再建の足かせに

14

4-1. 原発避難をめぐる問題

——タウンミーティングと発話分析

全国各地で避難者の<声>を吸い上げ、政策へ接合

- 「NPO法人とみおか子ども未来ネットワーク」主催
- 2012年7月より8回、いわき、郡山、新潟、埼玉、東京ほかで開催
- 30~50代が会員の中心(参加者は20~80代男女)
- 世代別、属性別の「**偏った議論**」
- 専門家/研究者としての主張は禁止(黒子/支援)
： <場>「**ここは富岡だったね」「町民どうしのケア」「認め合う」**
- ： <理解>基底にある共同体験、不理解からの脱却、子ども・家族への想い
- **質的統合法による問題構造の分析→政策基礎資料に(KJ法)**

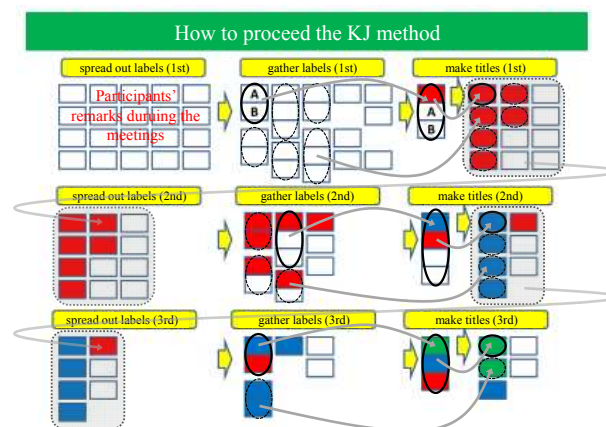
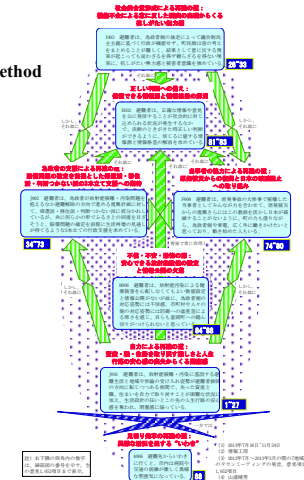
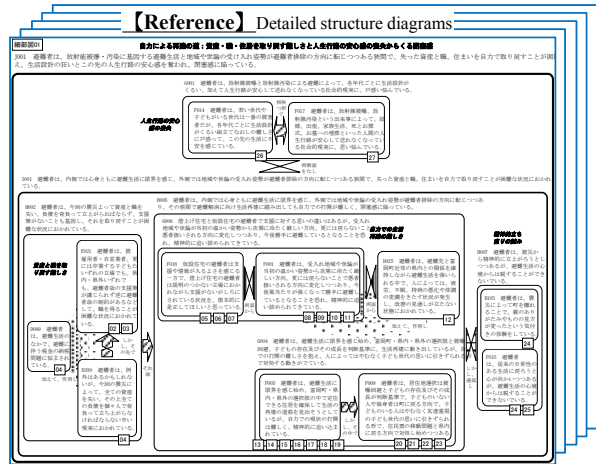


Figure 3 How to proceed the KJ method

【Reference】

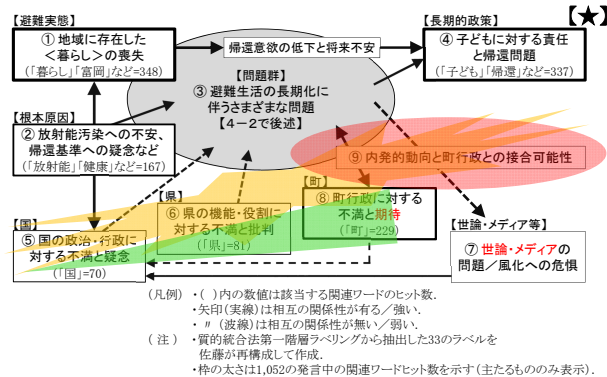
Result from KJ method





質的統合法+質的調査による被災者の発話分析

→事故対応や避難の経緯から問題は多様・複雑・深刻に



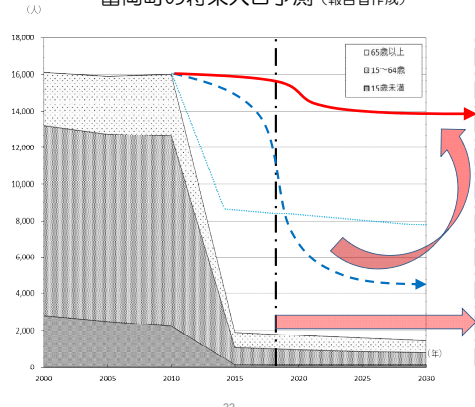
【★参考】「現時点で」……8割の人たちの「その先」は？

富岡町住民意向調査調査結果 (平成25年2月26日更新) より
(平成24年12月3日～18日の間に実施した「富岡町住民意向調査」調査結果)



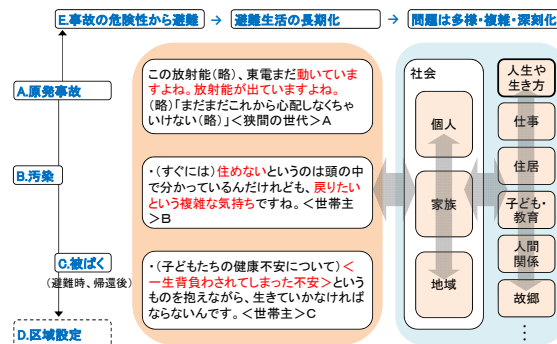
【★参考】今後加速し得る「切り捨て」と「断ちきり」……

富岡町の将来人口予測 (報告者作成)



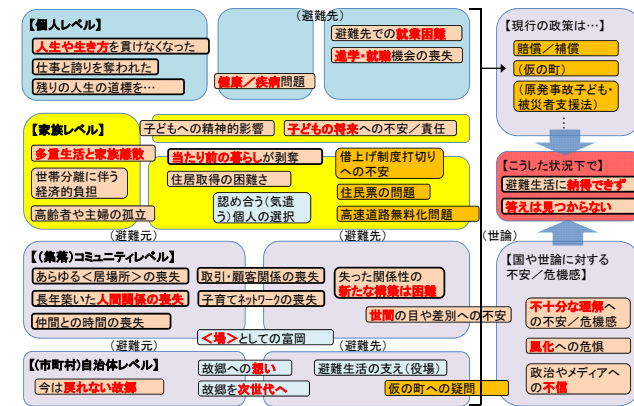
4-2. 原発避難をめぐる問題 ——質的調査から問題を掘り下げる

→事故対応や避難の経緯から問題は多様・複雑・深刻に



参与観察にもとづく質的調査分析(問題構造)

→問題多様で複雑な問題群とその構造: 国や世論に理解されない



5-1. 暮らしの復興について考える

——「不理解」という暴力(以下再掲)

- その背後には<失って><取り戻せない>ものがある
 - ・ 「子どもや孫が帰れる故郷を残したい」
 - ・ 「自分の故郷を失いたくない」
 - ・ 「先祖代々生かされた土地を守りたい」
- 既に<取り戻せない><引き返せない>ものもある
 - ・ 近隣関係：コミュニティの<再生>と<再構築>
 - 家族関係：大家族ゆえに貧しくとも暮らせた環境
 - 家族関係：県外避難の決断と親子・家族関係の変化
 - 都市的生活様式の享受と自家処理能力の喪失
- 選択の判断がつかない
 - 数年～数十年先の人生が奪われた現実→非難>理解
 - 被災当事者だけの問題ではない→家族・親族……

25

5-2. 暮らしの復興について考える ～おわりに～

- 将来同じようなことは必ず起こる
 - 国民が再び直面する：(原発事故)、大規模災害、環境汚染……

- より多くの国民に事態を理解
 - 事実を伝え、理解者を増やし、世論を見方につける (cf. サブ政治、三項構造)
- 私たち国民が一人ひとりの問題として……
 - このような現状を招いたのは私たち自身の責任
 - 市民社会(政治的責任が伴う)の回復/創造
 - まずは「問う」こと、「考える」ことから：運動
- 水俣や福島について問い・考える→社会を生き抜く

26

ご清聴ありがとうございました。

- 参考文献
 - ・ 佐藤彰彦, “タウンミーティングから見てきたもの——多量の被害を可視化する,” 人間なき復興——原発避難と国民の「不理解」をめぐって, 山下祐介・市村高志・佐藤彰彦, pp.163-175, 明石書店, 東京, 2013.
 - ・ 山下祐介・市村高志・佐藤彰彦, 人間なき復興——原発避難と国民の「不理解」をめぐって, 明石書店, 東京, 2013.
 - ・ 山本薫子・高木竜輔・山下祐介・佐藤彰彦, “原発避難をめぐる社会調査と研究者の役割——社会学広域避難研究会富岡班による研究活動,” 災害の社会学 NO. 1 (2012-2015年度科学研究費補助金研究成果報告書), 2013.